

第691回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 宇都宮駅東口地区整備事業 [宇都宮市]

…………… 栃木県宇都宮市

(交流拠点施設)

- ・ JR宇都宮駅改札口から徒歩2分と全国トップクラスのアクセス利便性を有する。令和4年11月に供用開始。
- ・ 2,000人収容可能な大ホールのほか、大小会議室を複数備えており、多様な催事ニーズへの対応が可能。
- ・ 外観は新国立競技場を手掛けた隈研吾氏の監修のもと、大谷石を活用した宇都宮らしい特徴的なデザイン。

(交流広場)

- ・ 約 6,000 m²の広さを有し、1~3 階で構成する立体的な広場。各階が宇都宮市の風景をモチーフとしたデザイン。
- ・ マルシェなど、広場単独での利用のほか、交流拠点施設と一体的な利用が可能。



2 LRT整備工事 [宇都宮市]

…………… 栃木県宇都宮市

- ・ 宇都宮市が目指す「スーパースマートシティ」の実現に向け、その基盤となる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を着実に推進するため、南北方向の鉄道と合わせ、高い輸送力や定時制を備えたLRTを東西方向の基軸として整備している。
- ・ 東部地域における慢性的な渋滞の緩和等のため、JR宇都宮駅東側の区間から優先的に整備することとし、平成30年5月に着工(約14.6km)。
- ・ 停留場数は19か所整備。うち5か所は、公共交通や車、自転車等の乗り換え施設となるトランジットセンターを整備する。



3 栃木県下水道資源化工場 [栃木県]

…………… 栃木県宇都宮市

- ・ 下水道の普及に伴い増加する下水汚泥に対応するため、安定的かつ適正に処理を行うとともに、下水汚泥を資源として有効利用することを目的に整備を進め、平成14年10月に供用を開始した。
- ・ 県内35の処理場で発生する下水汚泥(一部焼却灰を含む)等を専用トラックにより収集・運搬し、焼却・熔融処理を行っている。発生した焼却灰は、セメント原料などとして再生利用を進めており、本県の令和3年度における下水汚泥の有効利用率は82.2%となっている。
- ・ 施設の外観デザイン等については、周囲との調和が図れるように配慮している。



4 大行寺地区大規模雨水処理施設整備事業 [小山市]

…………… 栃木県小山市

- ・ 本地区は、一級河川である思川と豊穂川に囲まれた地形で、地区内には大学や住宅が立地している。
- ・ また、ともに緊急輸送路である主要地方道栃木・小山線と小山・結城線の交差する、交通の要所としても重要な地区である。
- ・ 平成27年9月関東・東北豪雨、令和元年東日本台風の発生により、本地区が甚大な浸水被害を受けたことを踏まえ、雨水幹線及び調整池、雨水放流を担うポンプ場を整備することで、概ね39年に1度程度発生すると考えられる降雨による浸水被害の軽減を図る。

